



平成19年9月20日

各位

会社名 株式会社テン・アローズ
代表者名 代表執行役社長 林 勝哉
(コード番号 9885 大証第二部)
問合せ先 経理部 谷口 博樹
TEL (078)794-0111

特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

当社において特別損失を計上することとなりましたので、下記の通りお知らせいたします。
また、子会社における事業譲渡に際し、その影響額を加味し、平成19年5月11日の決算発表時に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(連結業績予想に影響を与える特別損失の発生)

(1) 子会社の事業譲渡に係る損失の計上

ギフト卸売事業を構成する子会社(株)エニシルの事業譲渡が決定したため、事業整理損2,100百万円を特別損失として計上いたします。

また、事業譲渡に伴い発生する関係会社株式売却損380百万円を計上いたします。

(2) 「シャルレスポーツ」ブランドのたな卸資産評価損の計上

レディースインナー等卸売事業において、かねてから著しく販売不振が続いております「シャルレスポーツ」ブランドの商品在庫に関し、販売状況等を鑑み在庫評価減を計上することといたしました。

当社ではたな卸資産の評価に際し、季越等の理由により著しく販売数量が減少している商品については、過去の販売実績等に照らして必要な評価減を行い、売上原価として構成しておりますが、今回の評価損につきましては、「シャルレスポーツ」の発売以降における販売数量等の減少、今後の販売見込み等、総合的に判断し現在の在庫状況から過剰と判断しうる部分762百万円につきましてはたな卸資産評価損として特別損失に計上するものであります。

(個別業績予想に影響を与える特別損失の発生)

(1) 子会社の事業譲渡に係る損失の計上

ギフト卸売事業を構成する子会社(株)エニシルの事業譲渡が決定したため、事業整理損2,100百万円を特別損失として計上いたします。

また、事業譲渡に伴い発生する関係会社株式売却損380百万円および関係会社清算損失438百万円を計上いたします。

2. 平成20年3月期中間連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	26,300	1,300	640
今回修正予想 (B)	26,580	1,400	△2,120
増減額 (B - A)	280	100	△2,760
増減率	1.1	7.7	—
前期(平成19年3月期中間)実績	27,721	1,076	△759

3. 平成20年3月期中間業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,110	790	720
今回修正予想 (B)	1,150	760	△2,150
増減額 (B - A)	40	△30	△2,870
増減率	3.6	△3.8	—
前期(平成19年3月期中間)実績	5,097	516	△364

4. 平成20年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	53,800	2,400	1,070
今回修正予想 (B)	47,750	2,400	△1,520
増減額 (B - A)	△6,050	—	△2,590
増減率	△11.2	—	—
前期(平成19年3月期)実績	54,570	873	△2,545

5. 平成20年3月期通期業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,570	960	800
今回修正予想 (B)	1,610	940	△1,780
増減額 (B - A)	40	△20	△2,580
増減率	2.5	△2.1	—
前期(平成19年3月期)実績	5,601	693	△4,477

6. 修正の理由

(1) 連結業績予想の修正の理由

中間期

売上高につきましては、レディースインナー等卸売事業、ギフト卸売事業とも若干の上振れはあるものの概ね計画通りに進捗しております。

利益面につきましては、売上高の上振れにより経常利益が増加いたしますが、当期純利益につきましては、ギフト卸売事業を構成する子会社(株)エニシルの事業譲渡の決定による事業整理損2,100百万円と、関係会社株式売却損380百万円計上することとし、また、レディースインナー等卸売事業において「シャルレススポーツ」ブランドのたな卸資産評価損762百万円をそれぞれ特別損失に計上することといたしました。それに伴い税効果会計390百万円が適用されることにより、当初計画より当期純利益が2,760百万円減少し、2,120百万円の当期純損失に修正いたします。

通 期

売上高につきましては、11月に予定されておりますギフト卸売事業の事業譲渡により当初の計画を修正するものであります。

利益面につきましては、中間期で計上する特別損失と、税効果会計649百万円の適用により、当初計画より当期純利益が2,590百万円減少し、1,520百万円の当期純損失に修正いたします。

(2) 個別業績予想の修正の理由

中間期

売上高につきましては、概ね計画通りに進捗しております。

利益面につきましても、経常利益は概ね計画通りに進捗しておりますが、当期純利益につきましては、子会社の(株)エニシルの事業譲渡の決定による事業整理損2,100百万円と、関係会社株式売却損380百万円、関係会社清算損失438百万円を計上することとしたため、当期純損失2,150百万円に修正いたします。

通 期

売上高につきましては、概ね計画通りに進捗しております。

利益面につきましても、経常利益は概ね計画通りに進捗しておりますが、当期純利益につきましては、中間期で計上する特別損失に加え、税効果会計340百万円が適用されることにより、当初計画より当期純利益が2,580百万円減少し、1,780百万円の当期純損失に修正いたします。

(注)上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想と異なる場合があります。

以 上